

# 性感染症「梅毒」の感染者が増加しています

～岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部）～

○全国では、2011年以降、梅毒感染者の届出数が年々増加し、2018年7,007例、2022年12,966例の届出がありました。女性感染者はこの10年間で約20倍増加し、特に、20代の若い世代での増加が目立っています。

○岩手県では2015年までは年間数例でしたが、2016年以降、届出数が増加し、2018年及び2022年は過去10年間で最多となる29例の届出がありました。

○感染経路は、2012年までは男性の同性間での性的接触が多く、2013年以降は、男女ともに異性間の性的接触が増加しています。

全国における性別梅毒患者届出数の年次推移



岩手県における性別梅毒患者届出数の年次推移



## 予防法は？治療法は？

- ・感染部位と粘膜や皮膚が直接接触しないように、コンドームを使用することが勧められます
- ・コンドームを使えない性器以外の場所（口の中、口のまわりなど）に病変部ができることがあるので、**コンドームを使用しても100%感染を予防することはできません**
- ・皮膚や粘膜に異常があった場合は性的な接触は控え、早めに医療機関を受診しましょう
- ・パートナー（周囲で感染の可能性のある方）と一緒に検査を行い、必要に応じて、一緒に治療を行うことが重要です
- ・治療は、外来で処方された抗菌薬を服用し、医師が治療終了と判断するまで、処方された薬は確実に服用しましょう

## 早期発見・早期検査・早期治療が重要です

岩手県では

- ・梅毒の早期発見・早期治療につなげるため、県及び盛岡市の保健所で無料・匿名による検査を行っています
- ・保健所では、エイズ・クラミジア感染症・肝炎の検査も無料・匿名で行っていますので、不安がある方は保健所に相談することをお勧めします

## 梅毒ってどんな病気？

- 原因は、感染力が強い「梅毒トレポネーマ」という、らせん状の細菌です
- 主な感染経路は、感染している人の**病変部**（性器、口唇部、口腔内、肛門等）との**直接接触**です
- 妊娠している人が梅毒に感染すると、胎盤をとおして胎児に感染し、死産、早産、新生児死亡やさまざまな症状や障害が出ることがありますので、特に注意が必要です（**先天梅毒**）
- いったん完治しても**終生免疫が得られない**ため、**何度でも再感染**します
- 症状は、感染した後、経過した期間によって異なります



【電子顕微鏡写真】梅毒トレポネーマ 国立感染症研究所HP

### ◎第Ⅰ期：感染後約3週間

- ・感染が起きた部位に赤いしこりができたり、鼠径リンパ節が腫れることがあります
- ・治療しなくても症状が消える場合がありますが、体内から病原菌がいなくなったわけではなく、他の人にうつす可能性があります
- ・感染した可能性がある場合には、この時期に梅毒の検査が勧められます

### ◎第Ⅱ期：感染後数か月

- ・治療せず3か月以上経過すると、病原体が血液によって全身に運ばれ、手のひら、足の裏、体全体にうつすらと赤い発疹が出ることがあります
- ・発疹は治療しなくても消えることがありますが、治療しない限り病原菌は体内にいますので、治ったわけではありません

### ◎晩期顕性梅毒：感染後数年

- ・皮膚や筋肉、骨などにゴムのような腫瘍（ゴム腫）ができることがあり、心臓、血管、脳などの複数の臓器に病変が生じ、場合によっては死亡することもあります